

広報

こだま

2022

Vol.40

【栗田病院 広報誌】

入社式・職員紹介

広報散歩

マロン病棟

フォーカス くりた人

サクラ病棟 精神保健福祉士 原千夏

訪問看護ステーションあかり 開設のお知らせ



栗田病院グループ・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>

令和4年度入社式・職員紹介

4月1日に新たな職員を迎え入社式が執り行われました。理事長・院長より有朋会グループのビジョンや激励の言葉が伝えられ、新入職員一人ひとりに辞令が手渡されました。新入職員代表の挨拶もいただき、今後の仕事への熱意や社会人としての抱負が語られました。「この未来を創造する」という有朋会グループのビジョン、そして新たに迎えた仲間とともに有朋会は魅力あるグループを目指していきます。

今回は4月入社から数か月が経ち、各々の部署で活躍してくれているスタッフにそれぞれコメントをいただきました。



「テーマ」
1 あなたが感じた有朋会グループの魅力
2 初年度の目標と・有朋会グループスタッフへのメッセージ

職員コメント

○ サクラ病棟配属
看護師 上原遼



有朋会は2050ビジョンといった30年先の未来を見据えた計画を立てられており、魅力に感じました。2050ビジョンの中に地域に根差したサービスを計画されていたり、患者様の退院後の生活についても深く検討されており、患者様に寄り添う法人だと感じました。働いていて感じた魅力としては、とても働きやすいと感じました。先輩方に質問しやすく、同じことを複数回聞いても嫌な顔せず教えていただけるのでとても感謝しています。

精神科看護師としての経験を積んで、患者様のところに上手に寄り添える看護師になりたいと思います。精神疾患があるからというような偏見にとらわれず、患者様を全人的に捉えて関わられるようになりたいです。また、前職の総合病院で培った看護技術や患者様ご家族様との接し方についても磨いていきたいと思っています。

○ 栄養課配属
管理栄養士 山上裕子



有朋会では理念や治療目標などが明確にスタッフへ伝達されており、一致団結

してサービスの質の向上に向けて行動できるような体制をとっている点に大きな魅力を感じています。また、スタッフ間のコミュニケーションを円滑に進めるために、感謝しあうことや褒め称えることを大切にしており、とても恵まれた環境で働けることを大変うれしく思います。

初年度の目標は、チャレンジ精神と好奇心を持つことを大切に、管理栄養士としてできることを日々増やしていくことです。特に、栄養指導などを通して健康管理においての食事の大切さや、食事が健康の生きたる活力や喜びにつながる支援ができるよう日々努力していきます。

○ このころのクリニック水戸医事課配属
医療事務 邊見紗枝



入職して数か月が経ちました。新しいこととの出会いの日々の中、先輩方にフォローしていただく毎日です。

受付対応時に、患者様に「いつもの人はお休みなの？」「今日は○○さんじゃないのね。」とお声がけいただくことが何度かありました。名前を覚えていただいたり、この人に対応してもらいたいと思っていただけのような対応がされている証であると思います。患者様に対してだけでなく、スタッフ同士でも細やかな声かけがされており、あたたかな場所であると感じます。私は、このような丁寧であたたかな雰囲気がある有朋会の魅力の一つであると考えています。先輩方のもとで働きながら、私も患者様に「いつもの人」と思っていただけできるよう、丁寧な対応を心がけていきます。

広報散歩

『認知症治療病棟「マロン病棟」』

高齢化の進む地域医療の拠点として、栗田病院ではいち早く認知症治療に取り組んできました。認知症の発症や症状の悪化に対し、患者様それぞれに合った治療・サービスを提供する認知症治療病棟の小田部一也師長にお話を伺いました。

病棟で働くスタッフについて

マロン病棟のスタッフは令和4年4月現在で正看護師19名、准看護師2名、介護福祉士6名、看護助手4名、精神保健福祉士2名、作業療法士3名で構成されています。

当病棟は認知症の治療病棟であるため、入院される患者様のほとんどが高齢者です。そのため、認知症だけでなく内科疾患や外科疾患など様々な併症をお持ちの方も多く入院されています。そのため、一般病院を経験した看護師や、患者様のADLやQOLの維持を援助するために介護福祉士を多く配置する事でその対応に厚みを持たせています。



前列右から3番目・小田部一也師長

当病棟は、平成10年6月に老人性痴呆疾患療養病棟として開所し、現在は認知症治療病棟として運用しています。

開所当初は定床50床で稼働していましたが、認知症患者数は増え続け、地域から認知症専門の入院施設としてのニーズが次第に高まっていった結果、平成28年12月より定床52床へ増床しました。

病棟の機能・入院治療について

認知症の種類としては主にアルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などが挙げられますが、入院患者様の症状としては軽度から重度の方と様々な認知症患者様が入院されています。

認知症と診断され入院となった方はほとんどが当病棟への入院となり、毎月新規で約10名の方が入院されています。



早期治療・早期退院を掲げ、入院期間2ヶ月以内を目標としています。精神保健福祉士が中心となつて患者様やご家族様、他施設等と入院後間もなくから連絡を取ってスムーズな退院が出来るように調整しています。

治療は薬物療法と環境調整が中心となりますが他に作業療法も行っております。患者様により充実した入院生活を過ごしていただく事を目的とする他、集団での活動に参加していただく事で生活リズムやBPSDの改善、ADLやQOLの維持を図る意味合いもあります。

先にあげた通り、入院している患者様の中には認知症以外に内科的、外科的疾患を併発している方も多くいます。そのような方に対しても万全のフォローができるように医師、看護師、介護福祉士がそれぞれの専門性を活かしながらチーム医療を発揮し、日々患者様の体調管理を行っています。

やりがい、現在力を入れている取り組み

やりがいを大きく感じるところは、入院当初BPSDなどにより不穏を呈しがちな患者様が、治療が進み回復するにつれ穏やかにになり、私たちの提供するケアに対して「ありがとう。」と言っていただけで時々はとても嬉しいです。患者様の為に私たちが行なっていたケアが報われる瞬間です。

現在特に力を入れていることはスタッフの教育で

今後のマロン病棟は

当病棟では、令和3年2月1日に新型コロナウイルスによる最初の感染者を確認後、クラスターの発生となり、患者様やご家族様に長期のご苦労とご負担をお掛けしてしまいました。また、地域の皆様や関係機関の皆様にも多くのご心配とご迷惑をお掛けいたしました。皆様様の多大なるご支援と励ましにより、令和3年3月18日をもって新型コロナウイルス感染によるクラスターは終息を迎える事ができましたが、このクラスターの影響はとも大きく、入院受け入れを停止した期間もあり、本来の認知症治療病棟としての機能を果たせなかった事がございまして、現在も全世界的にみても新型コロナウイルス感染症の終息の目途はたっておりませんが、同じことが繰り返されないう必要な感染対策を徹底し、患者様ご家族様が安心して入院治療を受けていただける環境を目指して参ります。

認知症の治療に関し、先に挙げただけでなく私たちのできる事はまだまだたくさんあります。今後も地域のニーズにお応えし、より質の高い認知症治療を目指して参ります。



フォーカス くりた人



サクラ病棟

精神保健福祉士 原千夏

当院で働く、現場職員の声をお伝えします。

担当部署での役割や活動、担当業務

私は現在、サクラ病棟(急性期治療病棟)で精神保健福祉士として勤務しています。入職してから4年目で、1年目は地域医療連携室で勤務していたのでサクラ病棟は3年目になります。サクラ病棟では主に入院の窓口対応をしており、患者様やご家族様、関係機関からの入院相談を受け、調整を行っています。また、入院された患者様の症状が落ち着いてきた頃には、退院後の生活について患者様ご家族様と一緒を考えています。そこで必要な制度やサービスがあればその調整を行い、院内外の他部署、他機関との連絡調整を行っています。その他にも、必要に応じて他科受診や転院の調整も行っていきます。

患者様との関わり、心がけている事など

日頃の患者様との関わりでは、傾聴を大切にしています。大学でも精神保健福祉士としてそれが重要だと学んできましたが、実際に入職してから簡単ではないと感じることが多々ありました。元々お話が苦手な方や自分の気持ちを人に伝えることが難しい方の場合、会話中に沈黙になることがあります。入職当初はそこで「何か話さないか」と焦り自分ばかりが話してしまうこともありました。沈黙も患者様が考えていることや伝えたいことを引き出すための大事な時間だと今は感じています。また、何においても患者様との関係性を築くことは大事だと思えますが、サクラ病棟は3ヶ月以内で退院を目指す病棟のため、患者様によっては数週間や1ヶ月で退院される方もいます。その限られた時間の中で患者様との関係性を築くために、業務に追われていても、なるべく患者様が「話したい」「相談したい」と思っている声をかけてくださるタイミングでお話が聴けるよう心がけています。

やりがいを感じる時

以前、患者様本人に病識がなく、ご家族とはほぼ絶縁状態、経済的にも困窮しているというような、課題をいくつも抱えた方を担当させていただいたことがありました。頭を悩ませながらも、行政機関や訪問看護等さまざまな関係機関と連携し、無事退院に繋がられたケースでした。その方が退院後の初外来に元氣そうな姿で来られ、私がお話をかけると笑顔で「色々とお世話になった」と言ってもらえた時はやりがいを感じました。その時に関わった関係機関からも感謝の言葉をいただいたり、問題なく生活されている本人の様子を聞いたりすると、達成感も感じます。

また、他の患者様からも「原さんがいてくれたから安心して入院生活を送れた」「不安だったけど、相談できて安心した」といった言葉をいただいたり、感謝のお手紙をいただけたり、退院後も外リハや作業所への通所を継続されている様子を見たりすると、とても嬉しく感じますね。自分が精神保健福祉士としてきちんとできているの不安になることも多々ありますが、患者様のそういった言葉や様子は励みになっています。

他職種・関係機関との連携・繋がり

病棟ではやはり医師や看護師との連携繋がりが多いです。医師には治療状況や今後の方向性について確認したり、退院後のサービスについても相談したりしています。また、退院後の生活に必要な支援は何かを考える際には、患者様に一番近くで関わってくださる看護師さんにADLや病棟での様子等を確認し、相談しています。

関係機関との連携、繋がりがりますが、総合病院や精神科クリニック、時には行政や警察等から入院のご相談をいただくこともあります。特に行政が介入しているケースは複雑な事情を抱えた方も少なくなく、退院調整が難航することが多いです。そういったケースでは関係機関でカンファレンスを行うことで病状や今後の方向性について共有し、地域には見守りの依頼等連携を密に取らせていただいています。また、当院は精神科単科となるため、他科受診や転院が必要な場合には総合病院等と連携させていただいており、とても助かっています。

精神保健福祉士を目指したキッカケ

他医療機関に看護師として勤めている母から、「人が喜ぶようなことを考えたり、人の話を聴いたりすることが好

精神科専門 訪問看護ステーションあかり 開設のお知らせ

新たな訪問看護ステーションを開設致しました

令和4年4月1日より、水戸駅南口から徒歩10分の「このころのクリニック水戸」内に精神科に特化した訪問看護事業所「訪問看護ステーションあかり(以下、「あかり」)」を開設致しました。那珂市に拠点を置く、栗田病院内の訪問看護事業所「訪問看護ステーションこのころ(以下、「このころ」)」と併せ、水戸市・那珂市を中心に、ひたちなか市、常陸大宮市、常陸太田市、東海村、笠間市、茨城町など、近隣の市町村にお住まいの方々へ訪問看護を提供させていただいております。那珂市と水戸市それぞれに事業所を開設した事で、より広範囲に、より手厚く、より多くの方々へ、訪問看護サービスをご提案出来るようになりました。

「あかり」には、看護師3名、作業療法士2名が在籍しております。精神科訪問看護の経験や、専門の研修を終えている職員にて構成しており、循環器科や小児科、認知症病棟等の他領域での勤務経験がある職員もおります。地域の皆様が日常生活を送る上で感じている、様々なお悩みに対応出来る職員を揃え、日々訪問看護サービスの提供にあたっております。



左:訪問看護経験10年以上の吉澤さん、中央:循環器科での経験を持つ村山さん、右:小児科での経験を持つ廣木さん

「あかり」の機能・役割

訪問看護をご利用される患者様にはそれぞれご要望や理由があるかと思えます。例えば、薬の管理をサポートしてほしい、心配事や悩み事を聞いてほしい、一緒に散歩するなど運動や活動についてアドバイスしてほしい、定期的に血圧を測ってもらって体調管理をサポートしてほしい、他にも体調の変化など医師に伝えたい事を代わりに伝えてほしい、など様々です。

患者様が求める支援をきちんと理解して、それにあった支援を提供したいと考えております。利用される皆様がどのような生活を送りたいのかをしっかりと聞き、その生活が実現出来るよう、一人ひとりに合った支援計画を立案し、利用者様に同意をいただいたうえで支援を提供させていただきます。

訪問看護を利用されている方の多くは、先に挙げた悩み事や困り事を表現することが苦手な方がほとんどです。一人でお悩み、まずはお気軽にご相談ください。訪問看護でどのようなサービスが提供できるか一緒に考えさせていただきます。

「あかり」が大切にしている考え

「あかり」が訪問看護の支援を提供するうえで大切にしている考えとして、「ストレングスマデル」を掲げております。これは、苦手な事や出来ない事の改善ばかりに目を向けるのではなく、出来ている事や得意な事、関心がある事等の皆様の「強み」を活かした支援を行いたいという考えです。地域生活の主体は訪問看護をご利用される皆様でございます。皆様が送りたい生活の実現に向けて、私たちが考えを押し付ける事はせず、ともに考え、ともに歩んでいけたらと思っております。

きなあなたに向いているんじゃない?」と勧められたことがきっかけで、ソーシャルワーカーを目指しました。

大学入学当初は社会福祉士の資格取得を目標としていましたが、精神保健福祉コースに進めば、ダブルライセンス(社会福祉士と精神保健福祉士)の取得が可能だと知り、「国家資格が2つ取れるならそっちの方がお得だな」と、そんな軽い気持ちで精神保健福祉士の資格取得も目指すことにしました。

在学中、社会福祉士と精神保健福祉士どちらで働くか悩んでいましたが、栗田病院での実習中に陪席させていただいた長期入院患者様のカンファレンスで、退院に消極的な関係機関に対して、本人の言葉や気持ちを代弁し、地域の協力理解を得ようと奮闘される先輩の姿がとてもかっこよく、「私もそんな精神保健福祉士になりたい」と思いました。

また、身体的・精神的という三障害の中でも、精神障害は見えた目からはわかりにくく、本人の怠けや気の持ちようだと理解されにくい現状もまたあり、様々な偏見がある中で生活のしづらさを感じている方が多いということも実習を通して感じました。そんな方々の生活に精神保健福祉士として自分に関わることで、患者様やそのご家族様の感じている生活のしづらさを減らし、安心した生活が送れるようなお手伝いがしたいと思い、精神保健福祉士として働くことを決めました。

これからの目標

入職してから4年目になりますが、まだまだわからないことや上手くいかないこともあり、上司や先輩、同僚、後輩に助けていただきながら仕事に取り組んでいます。今後もケースワークを通して様々な経験を積んで精神保健福祉士としての力量を上げていき、患者様やご家族様、院内外の関係機関の方々からも頼られるような存在になれたらいいなと思っています。また、当院ではアルコール依存症の専門治療やクロザリル治療等にも力を入れているため、研修等でそれらの知識をより増やし、ケースワークに活かしていきたいと考えています。大変なこともあると思うので、休日には美味しい物を食べたり、ガチャガチャをしたりしてリフレッシュしながら頑張っています。

本インタビューは
下記から動画にて閲覧可能です。



連携について

「あかり」と「このころ」が所属する栗田病院グループには、「栗田病院」と「このころのクリニック水戸」の2つの医療機関がございます。同一グループならではの連携の取りやすさにより、体調の変化等を迅速に主治医へ報告・相談する事ができる点は、「あかり」「このころ」の大きな強みであると考えております。さらに当グループには、精神科デイケアや就労支援、それらを繋ぐ計画相談等、様々なサービスが揃っております。訪問看護だけに留まらず、グループ全体でのサポートも可能となりますので、病状だけに限らずご相談いただけますと幸いです。

今後の目標・展望

住み慣れた地域で自分らしく生活を送る事が出来る社会を目指す、といった考えが広まる中で、地域生活を支える様々なサービスへの需要が高まっております。その中でも、お住まいの「自宅」にてサービスを提供する訪問看護は地域の期待も大きく、提供事業所は年々増加傾向にあります。「あかり」と「このころ」は、精神科専門の訪問看護ステーションとして、医療や地域資源との連携のしやすさと言う強みを活かして、地域生活を送られていく皆様のお力になり続けられるよう、取り組んでまいります。地域生活を送られていく皆様のお声に耳を傾け、どのようなご希望があるのか、どうすれば応える事が出来るかを模索し、日々成長していきたいと考えております。ご質問やご相談等ございましたら、029-1298-0175(栗田病院代表)もしくは、090-18028-13144(訪問看護ステーションあかり)まで、お電話いただけますと幸いです。

文責:訪問看護ステーションあかり 責任者 森一 起

診療案内

外来担当医一覧表

| | 診察室 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|-----|------------|----|----|----|----|--------------------|
| 午 前 | 1 診 | 栗田 | 疋田 | 安部 | 栗田 | 鈴木 | 水挽 |
| | 2 診 | 安部 | 高橋 | 堤 | 木滝 | 堀 | 第2週 鈴木 第3・5週 吉川 |
| | 3 診 | 堤 | 早坂 | 木滝 | 増本 | 疋田 | 須藤 |
| | 5 診 | 須能 | | 水挽 | 富野 | | 富野 |
| 午 後 | 1 診 | 栗田 | 田中 | 安部 | 栗田 | 鈴木 | 水挽 |
| | 2 診 | 安部 | 高橋 | 木滝 | 木滝 | | |
| | 3 診 | | 早坂 | 須能 | | | |
| | 5 診 | 第2・4・5週 藤沼 | | | | | |

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。

2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

■ = 内科

受付時間 8:30～11:30 / 11:31～16:00
診察時間 9:00～ / 13:30～
*精神科外来は完全予約制になります。
*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。
予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

関連施設

サテライトクリニック

「こころのクリニック水戸」 〒310-0801 茨城県水戸市桜川2-5-15 TEL.029-231-0150 FAX.029-231-0152

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL.029-295-1834 FAX.029-353-2223

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第1くりの木」 「第2くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652
「第3くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681
「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

就労継続支援B型事業所

KURITAワークサポートセンター
「Work-Work」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5 TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

認知症デイサービス

「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263
「クリクリ金上」 〒311-0022 茨城県ひたちなか市金上1031-1 TEL.029-271-1607 FAX.029-271-1608

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」
〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750
認知症グループホーム「クリクリ田彦」
〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950-48 TEL.029-275-8701 FAX.029-275-8702

アクセスマップ

